

日時：2017年6月24日（月）15：00～

場所：東洋大学 2号館 3階 第1会議室

出席：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、松田英子、山崎晴美、  
中村 真

欠席：荒川 歩、小塩真司、北村英哉（欠席の3名は、審議事項を理事長に委任）

※常任理事以外の出席者は次の通り（いずれも「報告事項」のみの出席）

- ・松田浩平第26回大会準備委員長が準備状況報告のため出席

## 日本パーソナリティ心理学会第124回常任理事会

### 報告事項

#### I 理事長挨拶

#### II 各種委員会報告

##### 1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

#### (1) 第26巻第1号

J-STAGEにUP済み。7月中に印刷発送される予定である。

種別	題目	筆頭者	受稿	採択
依頼	Personality and Body Weight: Mechanisms, Longitudinal Associations and Context	SutinA.R.,& Terracciano,A	2016/11/16	2017/1/4
原著	日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成	下司 忠大	2016/3/20	2016/9/10
原著	サイコパシーが向社会的行動と身体的攻撃に与える影響：情動的・認知的共感性による媒介効果	田村 紋女	2016/1/15	2016/10/5
原著	攻撃的な人が不味い飲み物を与えるとき；挑発的行為と制御資源による影響	相馬 敏彦	2015/8/10	2016/10/14
原著	完全主義と選択的注意の関連の検討—ドット・プローブ課題を用いて—	坪田祐基	2016/4/11	2016/10/19
原著	恋愛関係の崩壊によるストレス関連成長—愛着スタイルおよび崩壊形態の関連—	中山真	2014/1/14	2016/11/21
原著	高校生の LINE でのやりとりに対する認知に現代青年の友人関係特徴が及ぼす影響	時岡 良太	2016/3/12	2016/12/29
ショート	児童用強み認識尺度と児童用強み活用感尺度の作成及び、信頼性と妥当性の検討	小國 龍治	2016/8/19	2016/11/21
ショート	中年期におけるジェネラティヴィティの構造とジェンダー差	相良順子	2016/3/20	2016/12/20

(2) 第 26 巻第 2 巻以降 (採択論文・掲載未定)

採択はされているが、掲載がどの号になるか未定。ウェブ上では随時公開されている。

種別	タイトル		受稿	採択
ショート	中年期女性における首尾一貫感覚 (SOC) のレベルとその要因—年齢層別検討—	鈴木淳子	2016/8/26	2017/1/4
ショート	日本語版ユーモアスタイル質問紙の信頼性・妥当性の検討	高岡しの	2016/7/13	2017/1/4
原著	在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の作成	閻琳	2016/7/4	2017/1/20
ショート	Sense of Coherence による精神的健康の予測可能性に関する検討—Big Five 性格特性との弁別性の観点から—	嘉瀬貴祥	2016/12/25	2017/1/27
原著	イヌ好きとネコ好きのパーソナリティの特徴—パーソナリティの多面性とペットのパーソナリティとの類似性について	田島司	2016/11/1	2017/2/20
原著	中年期の結婚コミットメントがジェネラティビティと主観的幸福感に及ぼす影響—ジェンダー差を中心に—	伊藤裕子	2016/6/13	2017/3/16
原著	自己注目と不安の関連に対する自尊心の媒介効果の検討—Wells の S-REF モデルの視点から	向井秀文	2016/4/10	2017/4/1
ショート	達成目標と動機づけ調整方略の有効性の認識の適切さ	後藤崇志	2016/11/21	2017/4/10
ショート	日常場面におけるリアリティ・モニタリング・エラー経験と強迫神経症傾向との関連性	中田英利	2016/12/5	2017/4/10
原著	架空の浮気場面への予測行動尺度の信頼性・妥当性の検討	神野雄	2016/12/21	2017/5/8
ショート	シングルマザーのワーク・ファミリー・コンフリクトが中高生の家族イメージ、結婚観に及ぼす影響—ペア調査によるふたり親世帯との比較を通して—	小平英志	2017/3/12	2017/5/15
ショート	共感的感情反応と向社会的行動および攻撃行動の関連—普段経験されている感情の影響を統制して—	堀井美里	2017/1/5	2017/5/30

計画では以上を第 26 巻第 2 号とし、逐次、J-STAGE に UP する。

(3) 審査状況

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ
8	2	17	9	4	1
9	2	13	9	2	0
10	3	15	6	1	0
11	2	13	8	2	2
12	2	13	7	2	0
1	4	9	10	1	0
2	1	14	8	0	0
3	1	12	12	2	0
4	3	17	11	0	1
5	2	25	6	1	3

投稿数は、急激に伸びており、採択率も上がっている。

(4) J-STAGE への移行に関して

学会抄録、機関誌に関して、現在、J-STAGE とやり取りをしている最中。性格心理学研究のプラットフォームは完成した。大会発表論文集については、オンラインに乗せるための申請、DOI の申請など複雑な申請手続きのため、j-stage 側での作業に時間を要する。あとは、j-stage 側の作業が済み次第、随時、アップされる見込み（掲載形式は未確定）。

状況に応じて来年度大会からは、英文検索への対応可能性を考慮することにする。

(5) 投稿者用チェックリストの変更について

加藤編集委員長より以下の通り「投稿者チェックリスト」を変更することが提案され、承認された。

1. 投稿資格と匿名性

1) 「パーソナリティ研究」に投稿できる論文は、第1著者が日本パーソナリティ心理学会の会員であるものです。必ず第1著者が編集委員（査読者）とやり取りを行ってください（変更する場合は必ず事前に申し出て許可を得てください）。

(6) 編集委員の臨時増員について

編集上の都合により、加藤委員長から、特例として、編集委員を1名増員することが提案され、審議の結果、承認された。

## (7) その他

加藤委員長が第26回大会に不参加の可能性があり、その場合に、理事会での報告を事務局長、総会では副編集委員長にお願いしたいとの申し出があった。

常任理事会として、月ごとの投稿数を提示することを加藤委員長に要望した。

## 2 広報委員会（松田委員長）

### (1) 活動報告

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信、図書紹介などの活動内容が報告された。

### (2) 委員業務分担

web ページ、メールニュース、web サイト外部委託の各業務について委員の役割分担の報告があった。

### (3) ウェブサイトの外務委託進捗状況

web ページのコンテンツについて残すべきものを選択した上で、メールニュースの配信および web コンテンツの更新作業を委託する方向で見積もりを依頼中であり、詳しい見積もりが届き次第、改めて報告をしたいとの説明があった。

### (4) YPP2017 について

以下の通り、概要の報告があった。

- ・日程：9月6日（水）の午後を予定
- ・企画担当：小國龍治（関西学院大学）、下司忠大（早稲田大学）、森彩乃（お茶の水女子大学）、田崎優里（広島大学）
- ・担当広報委員：檜原潤，解良優樹，斎藤彩
- ・企画内容：①若手会員による講演&ディスカッション、②ミニ研究セッション

松田委員長より、申し込み者数が少ない（現在3名）ので周辺へのお声かけをお願いしたいとの要望があった。また、大会発表を行う院生会員向けに案内を送ることを申し合わせた。案内文は広報委員会で作成する。

### (5) 今後の活動予定（継続を含む）

- ・ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時）
- ・委員分担コンテンツの更新
- ・web サイトの外部委託を継続検討
- ・YPP2017 の運営

### 3 学会活性化委員会（山崎委員長）

#### (1)委員構成

山崎晴美（日本大学）、藤田主一（日本体育大学）、齊藤 崇（淑徳大学）、陶山 智（亜細亜大学）、中谷陽輔（同志社大学）、森 津太子（放送大学）、守谷 順（関西大学）、矢澤美香子（武蔵野大学）

山崎委員長より委員の増員希望が提案されたが、理事長からの要望として、原則として、任期途中の委員の増員はできるだけ避けたいとの意向が示された。

#### (2)大会発表賞について

進捗状況などについて以下の通り報告があった。

② 編集委員会へ一次審査依頼。大会校へ発表論文の送付を依頼。

②昨年度受賞者のうち、懇親会出席者は2名。学会活性化委員会より懇親会費を支出予定。

#### (3)25周年企画

同企画について、以下の通り報告があった。

##### ①大会シンポジウムについて

以下の企画で調整中。

パーソナリティ心理学会25年の歴史と変革の軌跡

— 学会の機能・役割の変化と今後の展望 —

企画者：日本パーソナリティ心理学会

司会者：山崎晴美（日本大学）、話題提供者：杉山憲司（東洋大学名誉教授）、浮谷秀一（東京富士大学）、渡邊芳之（帯広畜産大学）、指定討論者：安藤寿康（慶應義塾大学）

##### ②ロゴマーク募集について

123回常任理事会において、大会活性化の手段としてロゴマーク公募を行うとの決定に基づき、具体的な募集案を作成中。なお、募集期間については、ロゴマークが出来たらポスターを郵送で配布したいが、時期としては機関誌の3号に同封するのが効果的である。それを目指してロゴ募集と発表、ポスター配布を行いたい。また、これらを本年度予算として執行したい旨の提案が山崎委員長よりあった。

渡邊理事長より、スケジュールと見積もりが具体的に提案され次第、予算などの検討を行いたいとの意向が示された。

#### (4)大会校担当委員

山崎委員長より、守谷順委員が準備委員会との窓口になること、慣例により、本年も大会校に活性化委員を1名推薦いただくよう依頼したい(本年度のみの任期)との提案が示された。これに対して、常任理事会に陪席している松田浩平第26回大会準備委員長より、第26回大会準備委員会事務局長の永盛善博氏を推薦したいとの申し出があった。

#### (5)大会運営ハンドブック

山崎委員長より大会運営ハンドブックについて以下の通り報告があった。

##### ①準備委員会マニュアル

26回大会の資料等も踏まえ、改訂版を作製する。

##### ②スタッフマニュアル

「スタッフマニュアル」が完成したので、大会校に送付した。常任理事会にも配布し意見をいただく。

#### (6)その他

山崎委員長より、本委員会の議事録、大会ハンドブック、大会発表賞選考マニュアル等の電子版の資料については、学会のHDに保存・管理していくシステムを作っていただきたいとの要望があった。

### III 日本心理学諸学会連合

#### 1 日心連理事会（渡邊理事長）

渡邊理事長より、2017年6月25日に次回の日心連社員総会が行われること、通常議案に加えて、公認心理師のカリキュラムの内容について厚労省の担当者から説明がある。パソ心として対応しなければならない問題があれば、必要に応じて、対応する。配布情報などは、必要に応じて何らかの方法で会員に配布するなど対応するとの意向が示された。

### IV 第26回大会準備状況について（松田浩平準備委員長）

第26回大会の準備進捗状況について別資料に基づいて報告があった。

### V その他

特になし。

### 審議事項

#### I 2016年度決算、2017年度予算の件（尾見財務担当常任理事）

尾見財務担当常任理事より、別紙資料に基づき、2016年度決算案、2017年度予算案が示され、審議の結果、承認された。

#### II 名誉会員の規程・内規について

渡邊理事長より、以下の通り、名誉会員の規程および名誉会員の推挙手続きに関する内規の変更案がそれぞれ示され、審議の結果、承認された。

---

## 日本パーソナリティ心理学会 名誉会員規程(案)

1. 日本パーソナリティ心理学会会則第5条に規定する名誉会員は、正会員のうち以下のいずれかに該当する者を、理事会と総会の承認にもとづいて推挙する。
  - 1) 理事長を務めた者
  - 2) 常任理事を通算2期以上務めた者
  - 3) その他、学会の運営や発展に大きな功績のあった者
2. 名誉会員は原則として推挙の前年度末までに満70歳に達したものであることを要するが、とくに功績の大きい者が満65歳を超えて常勤の職を退いている場合には、推挙することができる。
3. 名誉会員は、名誉会員の推挙を受けた翌年度より、年度会費の納入を免除される。その他の会員資格は正会員に準ずるが、役員選挙の選挙権、被選挙権は持たない。
4. 名誉会員推挙に関わる手続きの詳細については、別に定める
5. 本規程は平成29年9月7日より施行する。

## 名誉会員推挙の手続きに関する内規(案)

1. 名誉会員は、理事長が常任理事会に推薦し、理事会と総会の承認を経て推挙する。推薦の期限は原則としてその年の4月末日までとする。
2. 事務局は常任理事会、理事会および総会に諮るための推薦資料を作成する。
3. 理事長は、名誉会員候補者を常任理事会に諮り、常任理事会は推挙の可否を決定する。
4. 理事長は、常任理事会で承認された名誉会員候補者を、理事会の承認を経て総会に推薦し、総会の承認をうけて名誉会員に推挙する。
5. 名誉会員証の授与は、原則として推挙が承認された総会の終了後に行う。
6. 本内規は平成29年9月7日より施行する。

---

### Ⅲ 名誉会員の推挙について（継続検討事項）

渡邊理事長より、黒沢香先生を名誉会員として推薦したいとの提案があり、審議の結果、承認された。黒沢先生との連絡をお願いしている松田英子常任理事を通じて、推薦文の表記や文言をご本人に最終確認してもらうことを申し合わせた。

### Ⅳ 第123回常任理事会議事録の件

審議の結果、同議事録が承認された。

#### V 本学会第 26 回大会発表原稿の関西大学学術リポジトリへの登録について

同申請について、審議を行い、大会開催前の現時点では未発表であり論文集も未発行であることをお伝えし、第 26 回大会発表論文集が発行または Web 上で公開された後、あらためて申請を行っていただきたい旨を事務局長から回答することを申し合わせた。

#### VI 役員選挙にかかわる事務の外注について

中村事務局長より、別紙見積書に基づき説明があり、審議の結果、理事・監事選挙および理事の互選による理事長・常任理事選挙にかかわる事務を外注することが基本的に承認され、見積額については業者との間で再度交渉を行い、その結果を次回常任理事会で審議することを申し合わせた。

#### VII 会員の入退会に関する件

事務局より別紙の通り、新入会希望者 46 名（うち 45 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望者 34 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2017 年 6 月 21 日現在、会員総数は 938 名である。内訳は、一般会員 669 名、院生会員 254 名、学生会員 4 名、名誉会員 8 名、賛助会員 3 名。

※ 今回審議対象の新規入会希望者 1 名は含まれない。

#### VIII その他

特になし。

#### IX 次回常任理事会について

次回は、2017 年 8 月 7 日（月）15:00 から東洋大学で行う。